

初島住彦* 日 本 新 分 布 植 物

S. HATUSIMA* : Species New for the Flora of Japan

1. **Murraya Koenigii** (L.) SPRENG, Syst. Veg. 2 (1825) 315 ; HOOKER, Fl. Brit. India 1 (1875) 503 ; HUANG in Acta Phytotax. Sin. 8 (1959) 103 et Fl. Hainanica 3 (1974) 45 ; BACKER & R. C. BAKH., Fl. Java 2 (1965) 103 ; Iconogr. Coromophyta Sin. 2 (1972) 555

Berbera koehigii L., Mant. (1767) 68

Hab. Ryukyus : Amami-oshima, OKA 15593, KAWAGOE, s. n., HATUSIMA 40336

Distr. S. China, Hainan, Indo-china to India and Java.

2. **Dunbaria podocarpa** KURZ in Journ. As. Soc. Bengal 432 (1874) 185 ; MASAMUNE, Fl. Kainatensis (1943) 12 ; Iconogr. Coromophyta Sin. 2 (1972) 505, f. 2739 ; HATUSIMA, Fl. Ryukyus rev. ed. (1975) 881

Hab. Ryukyus : Isl. Iye, HATUSIMA 37551

Distr. S. China to India

3. **Canavalia maritima** (AUBL.) THOU in Desv. Journ. de Bot. 1 (1813) 80 ; MERR., Enum. Philip. Fl. Pl. 4 (1926) 243 ; BACKER & R. C. BAKH., l. c. 651 ; HATUSIMA, l. c. 882

Dolichos maritimus AUB. Pl. Guian. France (1775) 765

C. rosea DC., Prodr. 2 (1825) 404

Canavalia sp. ? MATSUMURA in ITO & MATSUMURA, Tent. Fl. Liukiu. (1899) 159 ?

Hab. Ryukyus : Isl. Miyako, M. Furuse

Distr. Pantropic

4. **Cassylia glabella** R. BR., Prodr. Fl. Nov. Holl. (1810) 404 ; BENTH., Fl. Austr. 5 (1870) 310 ; KOSTERMANN, Bibl. Laur. (1964) 230 ; EICHLER in T. M. Blacks, Suppl. Fl. S. Australia (1965) 150

C. filiformis var. *pergracilis* HATUSIMA in Journ. Geobot. 19 (1971) 26, syn. nov.

C. pergracilis (HATS.) HATUSIMA in l. c. 24 (1976) 37, syn. nov.

* 鹿児島市吉野町2635-3 Yoshino-cho 2635-3, Kagoshima city

Hab. Ryukyus : Isl. Izena and Isl. Kumejima

Distr. Australia

摘 要

1. **オオバゲツキツ** 奄美大島にハマセンダンに似ているが葉の羽片の数が多く、幅が狭く、もめばハマセンダンと異なる強烈な香りのあるものがある。永らく不明であったが最近南中国からインド、マレーシアに分布する上記の種であることが判った。

2. **カイナンノアズキ** 本種は一見、日本内地にあるヒメクズに近いが葉が大きく、小葉の先端はややつぶれているので区別出来る。琉球の伊江島の西端部に産する。本種も台湾に記録がなく南中国からインドシナに分布しているのは分布上注目すべきである。WALKERは氏の琉球植物誌 (p. 591) に伊江島および沖縄島からヒメクズを報告しているがおそらく本種の誤認ではないかと考えている。

3. **ナガミハマナタマメ** (新称) 本種は葉はハマナタマメに非常に似ているので従来ハマナタマメと混同されていたものと思う。しかし果実を見ると全く異なっている。すなわち本種の果実は線状長楕円形で長さ10~15 cm に達する。松村任三博士は台湾南部産のハマナタマメ一種を *Canavalia* sp. ? として氏の琉球植物誌の中に発表しているが記載から判断すると台湾に未記録のナガミハマナタマメのように思う。琉球では最近古瀬義氏が宮古島で採集したがその後、波照間島や西表島にも分布することが判った。本種は汎熱帯性の植物である。

4. **イトスナズル** 本種は最近スナズルの変種として発表し後に種に上げたものである。しかるに昨年オーストラリアのクインズランドを旅行した際、本種と全く同じものを発見したので色々調べた結果、オーストラリアに広く分布する *C. glabella* R. BR. であることが判った。本種はオーストラリアから一足飛びに琉球に分布しているオーストラリア要素でイゼナガヤなどの分布と軌を一つにするものである。